

若槻禮次郎 政治家、漢詩人。慶應二年二月五日出雲國松江生れ、昭和二十四年十一月二十日歿（八六—九四九）。舊姓與村、幼名源之丞。號克堂、古風庵、古風庵主人、木鏡散人。明治二十五年帝國大學法科大學卒。大藏省に入り主税局長、次官歴任。大正元年藏相、十二年内相、翌年普通選挙法を成りさせ、治安維持法を制定した。十五年内閣を組織し翌年金融恐慌を総辭職。昭和五年ロンドン海軍軍縮會議首席全權。翌年と憲民政黨總裁となり第一内閣を組織。戦後東京裁判では證人として出廷。夙に漢詩を能くし、書ぶも巧み。

著書に『國民の許す』（田原和男編、昭和二年二月二十四日改造社）、『憲民政黨の本領』（濱口雄幸・末次竹二郎合著、昭和二年八月十八日百々吾郎編刊）、『憲民政黨遊説部』（乗橋詩贖（附録・學克堂全權留別詩贖）（昭和五年八月花月社印行）、『歐洲の使して』（昭和六年五月一日實業之日本社）、『故子翁流澤榮一翁追悼講演録』（他八名合著・鈴木誠治編、昭和七年四月二十八日研調會）、『海嶽集』全二冊（昭和十年九月一日旬刊）、『古風庵回顧録』（明治、大正、昭和政界秘史）（昭和二十五年二月二十五日讀賣新聞社）等。

青木得二著『若槻礼次郎・浜口雄幸』（昭和二十二年十一月一日時事通信社）『二代宰相列伝』（

かゝる。



若槻禮次郎自傳

古風庵回顧録

明治大正昭和政界秘史

海嶽集